

『新・戦争論』（佐藤優・池上彰 対談）

～僕らのインテリジェンスの磨き方～

無心塾 栗原 隆

(1) はじめに

世界情勢の急変⇒こういうとき、表面的に事実関係を辿っていても、事実の本質には迫れない。その地域には、どんな歴史があるのか、民族や宗教の分布はどうなっているのか、背景や深層を知ること、初めて真相に近づくことができる。(池上彰)

(2) 序章 日本は世界とズレている

- ・外からは奇妙に見える日本
- ・有名無実の「集団的自衛権」
- ・安倍総理の「心」を見よ
- ・自民党も朝日新聞も信者
- ・慰安婦問題の本質とは？

本書のタイトルは『新・戦争論』。こうした時代は、国家においては政治も、軍事も、経済も、科学技術も、あらゆる「力」を総合しなければ生存できないのですが、どうも今の日本は世界からズレている。・・・とりわけ情報力、分析力といったインテリジェンス能力が個人にとっても重要になってきます。(佐藤優)

(3) 第1章 地球は危険に満ちている

- ・クラウドヴィッツ『戦争論』は古くない
- ・イスラエルの無人機は“暗殺者”
- ・「イスラム国」は四割が外国人兵士
- ・殺しが下手なアメリカ-攻撃暗殺テロの有効性
- ・民間会社が行なう新しい戦争
- ・エボラ出血熱の背後に人口爆発あり

混乱がビジネスチャンスになる。紛争を喜んでいる人たちがいるわけです。(池上彰)

組織ならざる暴力装置と言いますか、暴力民間企業や破綻国家がどんどんプレイヤーになってきているのが、今の国際社会の難しさです。(佐藤優)

(4) 第2章 まず民族と宗教を勉強しよう

- ・毛沢東の予言
- ・「中華民族」は存在するのか
- ・ダライラマと五回会った
- ・「宗教は毒だ」と毛沢東はダライラマに囁いた
- ・中国政府 VS ヴァチカン
- ・クリスチャンだった金日成 (キムイルソン)
- ・フランスは完全世俗国家
- ・今、世界は拝金教
- ・「イスラム国」の正体は？
- ・破綻国家とビルゲイツ
- ・慰安婦問題はアメリカが深刻
- ・「遠隔地ナショナリズム」が世界を覆う

民族問題が国家統合を揺るがすという事態が世界のあちこちで起きていますが、とくに深刻なのは、国内に五六もの民俗を抱えている中国でしょう。(佐藤優)

「中国は土地が広大で物産が豊富、そして人口が多い、というのが、実際には『人口が多い』のは漢民族、『土地が広大で、物産が豊富』なのは少数民族であって、すくなくとも地下資源については、少数民族のほうが『物産豊富』だろう(『毛沢東選集』)。(佐藤優)

(5) 第3章 歴史で読み解く欧州の闇

- ・エネルギーが世界を動かす
- ・ウクライナの内部断絶
- ・肉屋に人肉が吊るされていた
- ・ナチスに協力したガリツィア
- ・クルミアのロシア人とウクライナ人は仲がいい
- ・避暑地とソ連のセックス事情
- ・ウクライナの意味は「田舎」
- ・底辺労働力としてのウクライナ人
- ・スコットランド独立運動の真相
- ・イギリスは「民族」にもとづかない国家
- ・EUの首都ベルギーが危ない
- ・ヨーロッパが再び火薬庫に

いま起きている問題は、すべて克服したはずの古い民族問題です。自分たちの民俗は一つの政治単位を持たなくてはいけない、文化的に共通な人々は政治単位を持たなくてはならない

という国民国家神話の復活です。(佐藤優)

(6) 第4章 「イスラム国」で中東大混乱

- ・アラブの春の後の無惨 ・シリアのキーポイントは、アラウィ派
- ・ムスリム同胞団を皆殺しにしたアサド父 ・オバマ大統領の失敗
- ・「イスラム国」の横取り戦略 ・アメリカとイランの接近の理由は？
- ・湾岸の黒幕、サウジアラビア ・一夫多妻と「時間結婚」
- ・スンニ派で一番過激な派は？ ・白人は皆、若くて強い！？
- ・十二イマーム派とハルマゲドン ・嘘つきシーア派
- ・アサド政権を支持するイスラエル ・モサド長官の交渉力

2011年の「アラブの春」では、北アフリカのチュニジアから始まった民主化運動がエジプト、リビアに飛び火して、各国で長期独裁政権が倒れました。私たち日本人にすれば、「独裁政権が倒れて民主化されるんだ。少しは世の中進歩するんだな。いいことだな」と、つい思ってしまいました。

でも、アラブにおいては、現実はそううまくは運ばなかった。その後の国づくりは難航し、中東に民主化は広がるどころか、むしろ混乱が広がっています。(池上彰)

(7) 第5章 日本人が気づかない朝鮮問題

- ・アメリカは日朝交渉をつぶしたい ・期待値上げオペレーション
- ・北朝鮮のミサイルは、日本への求愛行動 ・金正日と金正恩(キムジョンウン)の違い
- ・張成沢(チャンソンテク)はなぜ処刑されたか？ ・中国人に怒る平壤の人々
- ・日本のカネが頼りの北朝鮮 ・「日本人問題の最終解決」の怖さ
- ・「日本人大量帰還」は北朝鮮のカード ・日本VS朝鮮、一对一の戦争はなかった
- ・中・朝「歴史戦争」が始まる

北朝鮮に送金できるようになると、その金で何をやるのか北朝鮮は安全保障をリアリズムで考えています。リビアのカダフィ大佐の教訓から学んでいる。それからイランやイラクの教訓からも学んでいます。要するに、下手に出ても、核を持たなければ、つぶされるということです。アメリカに到達する弾道ミサイルをもつことが、アメリカから安全保障をとりつけるための唯一の方策だということが、今の金正恩政権の発想です。(佐藤優)

(8) 第6章 中国から尖閣を守る方法

- ・中国の思惑通りに進む尖閣問題 ・中国の空母は怖くない
- ・毛沢東化する習近平 ・ネットと世論は同じか？
- ・トルコと回教がつながるウイグル問題 ・民族主義か？イスラム主義か？
- ・中国にとって尖閣よりウイグルこそ重要

日本の場合、困ったことに、竹島と尖閣が裏表になってしまった。竹島は実効支配され、尖閣は実効支配している。・・・この二つでは相反する論法をとらざるを得ません。(佐藤優)

2013年10月28日、北京の天安門広場に車で突っ込んだウイグル人も、民族過激派であるとともに、宗教的な文献を持っていたと言いますしね。(池上彰)

中国にとって東は経済発展のために必要で、紛争を起こす必要はない。国家安定のために必要なのは、西での安定なのです。(佐藤優)

(9) 第7章 弱いオバマと分裂するアメリカ

- ・教養が邪魔するオバマ ・「白人」だけの民主主義
- ・アメリカの宗教事情 ・大統領候補はヒラリー？

いまアメリカは、日本ではあまり議論されることのない問題に頭を痛めています。アメリカで地下に潜んでいた人種主義が再び表に出始めたのです。2014年8月9日、ミズーリ州ファーガソンで起きた白人警官による黒人射殺をきっかけとした騒動に手を焼いていて、オバマの頭の三分の一くらいは、これに悩まされているのではないのでしょうか。

アメリカの民主主義は、黒人、あるいは先住民を排除したところに成り立つ民主主義であり、この問題がいまだに克服されていないことが白日の下にさらされてしまったわけです。(佐藤優)

「2050年問題」とは、建国以来、圧倒的に優位だった白人が、人口数として少数派に転じるのではないかと、という問題ですね。ヒスパニック（アメリカに住むスペイン語を母国とする中南米出身者やその子孫）、今は「ラチーノ」と呼ぶことになっていますが、そのラチーノの人口がどんどん増えています。・・・ラチーノは、大きな政府主義、民主党支持者が多いので、共和党が選挙に勝てなくなるという問題があります。(池上彰)

(10) 第8章 池上・佐藤流情報術5カ条

- ・息が詰まる日本のネット空間　・軽軍備ならインテリジェンスを
- ・公開情報だけで世界はわかる　・情報は「信頼できる人」から
- ・重要記事は即、破る　・情報は母国語でとれ
- ・スケジュールからメモまで「一冊の大学ノート」で

ネットに自分の意見を書き込むような人は、まだまだ少数派であることを忘れて、ネットの論調を社会全体の論調と思い込み、すぐに「マスコミは偏向報道している」と言い出すのはとても残念であり、不健全な考え方です。(池上彰)

日本は、軍事大国にはならないというのであれば、その分、インテリジェンス機関をつくって、きちんと機能させなければなりません。(池上彰)

賛成です。ただし、インテリジェンス機関をつくることと特定秘密保護法は、実はあまり関係ありません。あれは、官僚が政治家から情報を隠すための法律ですから。(佐藤優)

(11) なぜ戦争論が必要か

- ・新帝国主義と過去の栄光　・嫌な時代

それぞれの国にとっての「過去の栄光を再び求める動き」が剥き出しに出てきているのではないかと。佐藤さんの分析を私なりに補足すると、そういうことになっているという気がします。(池上彰)

要するに、「嫌な時代」になってきたのですよ。これからの世界を生き抜くために、個人としては、嫌な時代を嫌な時代と認識できる耐性を身につける必要がある。そのために通時性においては、歴史を知り、共時性においては、国際情勢を知ること。(佐藤優)

歴史を改めて勉強することが必要ですね。・・・今になって、歴史を読むと「ああ、歴史は繰り返す」と思います。(池上彰)

「今後、第三次世界大戦が起こりうるか？起こるとしたらどんな形の戦争が考えられるか？」という問いかけも出てくるでしょうが、それに対しては、「そういうことはあってはならない」という立場で、私は全力を尽くしたい。そして実践的な課題としては、軍事エリートと政治エリートのトップから馬鹿を排除すること。馬鹿な兵隊、馬鹿な政治家がいても、彼らが自滅して終わりになるのはいい。しかし、トップにいた場合は、部隊もしくは国家が全滅することになりますから。(佐藤優)

(12) おわりに　池上氏は、混沌とした21世紀の日本で、人々に真理を伝えることを使命としている。池上氏の言動によって、われわれは自由になるのである。(佐藤優)